

本市の人口動態について

亀山市

政策部 政策推進課

目次

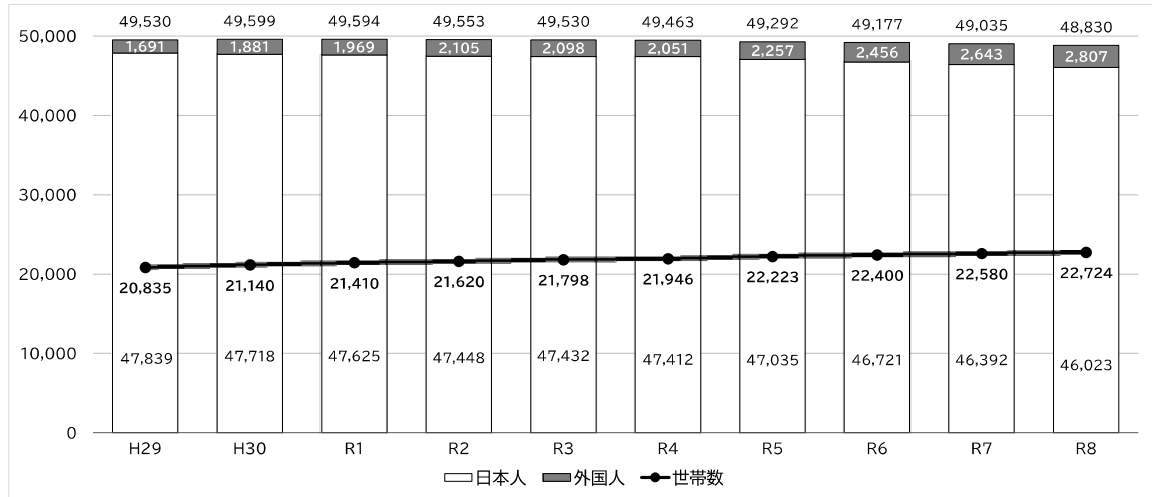
人口推移	1
人口推移（増減）	1
人口（年齢別）	2
人口比率	2
自然増減数	3
自然増減数（日本人）	3
自然増減数（外国人）	4
社会増減数	4
社会増減数（日本人）	5
社会増減数（外国人）	5
合計特殊出生率	6
未婚率	6
総人口の推移	7
地区別人口の推移	8
地区別人口比率	8
地区別人口マップ	9
小学校区別人口の推移	10
小学校区別人口比率	10
小学校区別人口マップ	11
主要な転入元（日本人）	12
主要な転入元（外国人）	12
主要な転出先（日本人）	13
主要な転出先（外国人）	13
着工住宅数（総計）と転入者数	14
着工住宅数（総計）	14
着工住宅数（新設）	15
着工住宅数（増改築）	15
年齢階級別の人口移動の推移（総数）	16
年齢階級別の人口移動の推移（日本人）	17
年齢階級別の人口移動の推移（外国人）	18
人口ピラミッドの推移	19

人口推移等基礎データ

■人口・世帯数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
総人口	50,001	49,661	49,914	49,800	49,584	49,530	49,599	49,594	49,553	49,530	49,463	49,292	49,177	49,035	48,830
日本人	47,963	48,120	48,257	48,142	48,016	47,839	47,718	47,625	47,448	47,432	47,412	47,035	46,721	46,392	46,023
外国人	2,038	1,541	1,657	1,658	1,568	1,691	1,881	1,969	2,105	2,098	2,051	2,257	2,456	2,643	2,807
世帯数	20,294	20,021	20,400	20,576	20,620	20,835	21,140	21,410	21,620	21,798	21,946	22,223	22,400	22,580	22,724

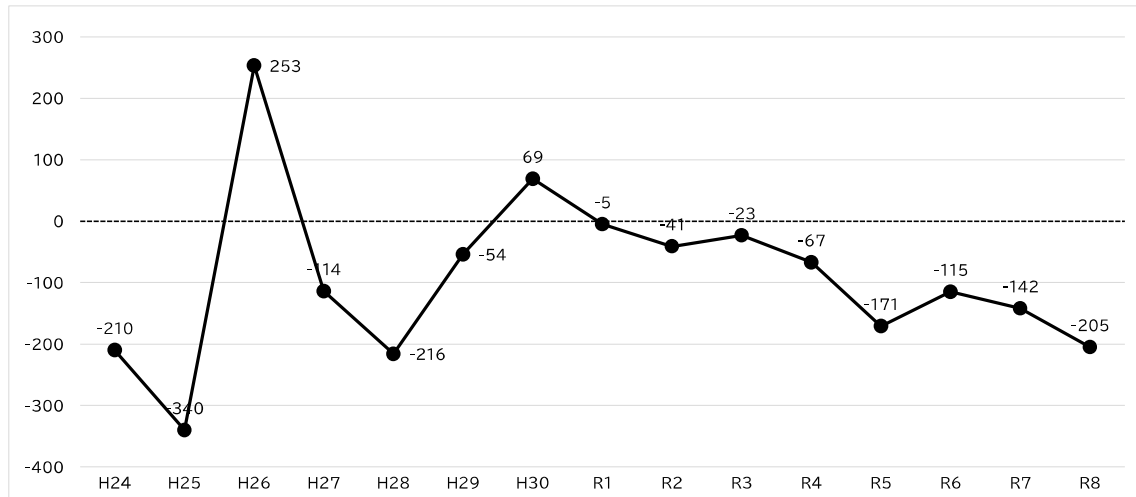
出典：住民基本台帳（各年4月1日）



■総人口に対する増減の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
増減	-210	-340	253	-114	-216	-54	69	-5	-41	-23	-67	-171	-115	-142	-205

出典：住民基本台帳（各年4月1日）

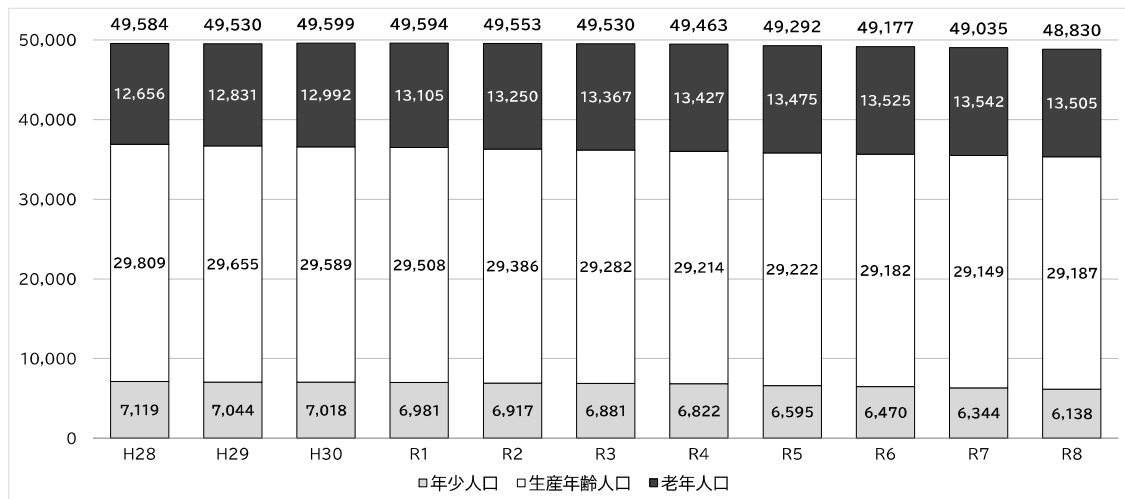


本市の総人口は、平成28年以降概ね横ばいで推移していますが、令和元年以降は減少が続いており、近年は減少幅の拡大傾向がみられ、令和8年は総人口が49,000人を割り込みました。一方、世帯数は増加傾向にあり、人口減少と併せて平均世帯人員が減少していることが分かります。また、外国人人口については、増加傾向が続く中、コロナ禍の影響等により令和3年・4年では一旦減少したものの、令和5年度以降は、再び増加に転じています。

■人口（年齢別）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
総人口	50,001	49,661	49,914	49,800	49,584	49,530	49,599	49,594	49,553	49,530	49,463	49,292	49,177	49,035	48,830
年少人口	7,038	7,106	7,136	7,154	7,119	7,044	7,018	6,981	6,917	6,881	6,822	6,595	6,470	6,344	6,138
生産年齢人口	31,814	30,953	30,720	30,281	29,809	29,655	29,589	29,508	29,386	29,282	29,214	29,222	29,182	29,149	29,187
老年人口	11,149	11,602	12,058	12,365	12,656	12,831	12,992	13,105	13,250	13,367	13,427	13,475	13,525	13,542	13,505

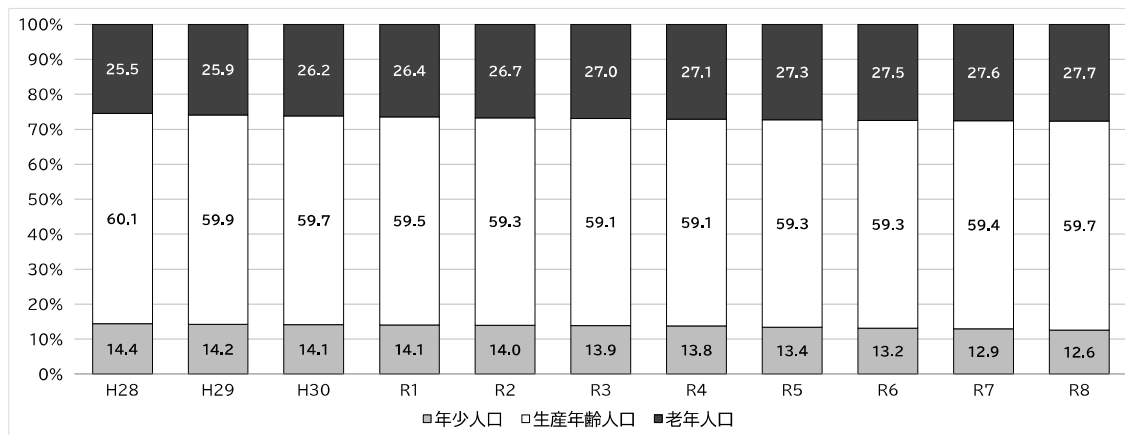
出典：住民基本台帳（各年4月1日）



■人口比率（年齢別）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
年少人口	14.1	14.3	14.3	14.4	14.4	14.2	14.1	14.1	14.0	13.9	13.8	13.4	13.2	12.9	12.6
生産年齢人口	63.6	62.3	61.5	60.8	60.1	59.9	59.7	59.5	59.3	59.1	59.1	59.3	59.3	59.4	59.7
老年人口	22.3	23.4	24.2	24.8	25.5	25.9	26.2	26.4	26.7	27.0	27.1	27.3	27.5	27.6	27.7

出典：住民基本台帳（各年4月1日）

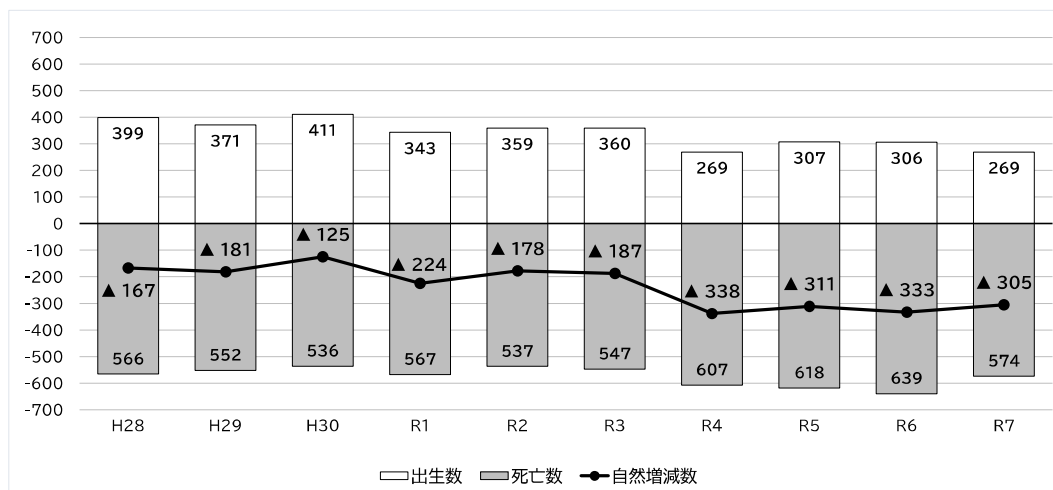


本市の人口構成は、老年人口比率が緩やかに増加傾向にあり、その一方で年少人口比率は減少傾向にあります。生産年齢人口比率は、令和2年度以降概ね横ばいで推移しています。

■自然増減数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
出生数	449	470	464	445	399	371	411	343	359	360	269	307	306	269
死亡数	493	482	513	470	566	552	536	567	537	547	607	618	639	574
自然増減数	▲ 44	▲ 12	▲ 49	▲ 25	▲ 167	▲ 181	▲ 125	▲ 224	▲ 178	▲ 187	▲ 338	▲ 311	▲ 333	▲ 305

出典：住民基本台帳（各年度）



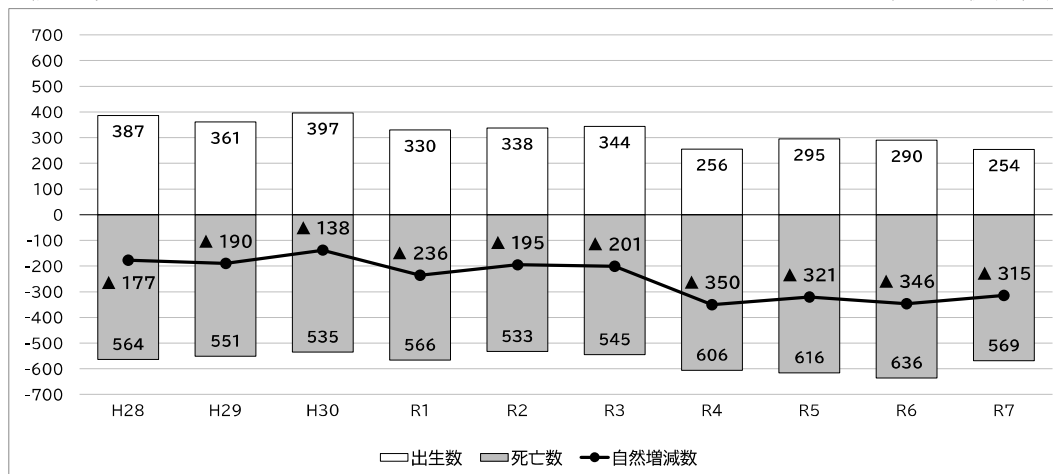
本市の自然増減については、少子高齢化の進展により、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いており、特に令和4年度には出生数が大きく減少し、マイナス幅が拡大しました。出生数については、令和4年度に大きく減少し、その翌年度以降は増加に転じてましたが、令和7年度は令和4年度と同数の出生数となりました。死亡数もやや増加傾向にあり、令和7年度は減少に転じるも、300人以上の自然減が続いています。

■自然増減数（日本人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
出生数	442	453	449	434	387	361	397	330	338	344	256	295	290	254
死亡数	492	481	510	470	564	551	535	566	533	545	606	616	636	569
自然増減数	▲ 50	▲ 28	▲ 61	▲ 36	▲ 177	▲ 190	▲ 138	▲ 236	▲ 195	▲ 201	▲ 350	▲ 321	▲ 346	▲ 315

※H24 事務処理誤差あり。

出典：住民基本台帳（各年度）



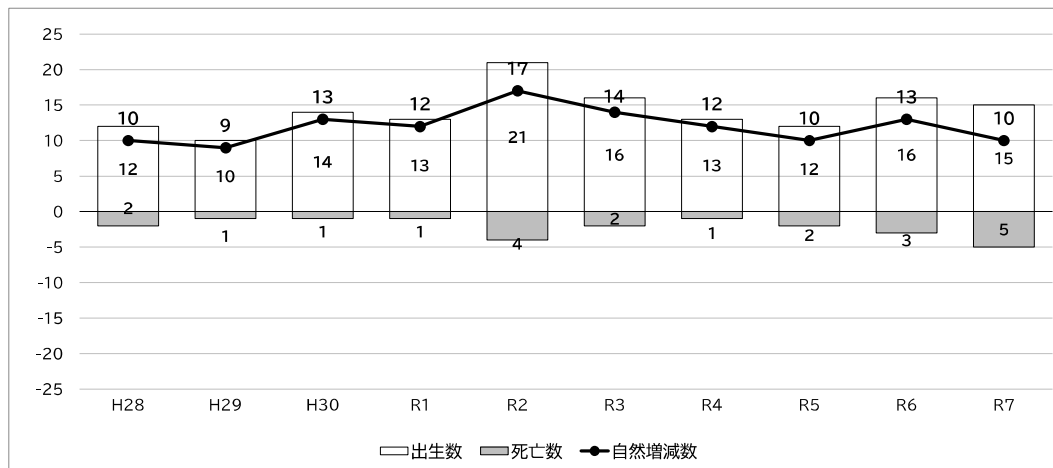
本市の総人口の約95%を日本人が占めており、日本人の自然増減の傾向については、全体の傾向とほぼ同様となっています。令和7年度は前年度と比較し、出生数は減少するも、死亡数も減少したため、自然減が改善されているが、大きな改善には至っていない。

■自然増減数（外国人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
出生数	7	17	15	11	12	10	14	13	21	16	13	12	16	15
死亡数	1	1	3	0	2	1	1	1	4	2	1	2	3	5
自然増減数	6	16	12	11	10	9	13	12	17	14	12	10	13	10

※H24 事務処理誤差あり。

出典：住民基本台帳（各年度）



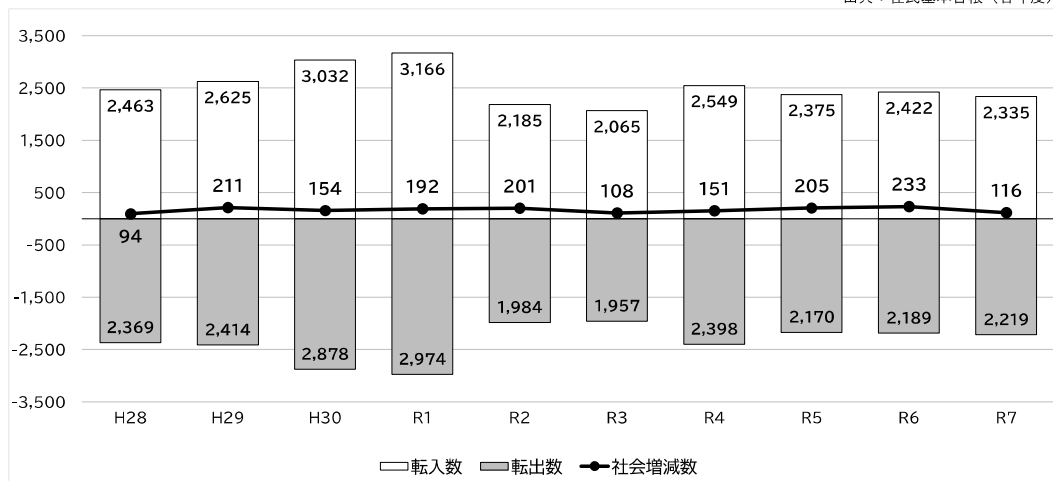
本市の自然増減のうち、外国人については、人口全体に占める割合は低いものの、自然増で推移しています。

■社会増減数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
転入数	2,532	2,566	2,445	2,309	2,463	2,625	3,032	3,166	2,185	2,065	2,549	2,375	2,422	2,335
転出数	2,823	2,289	2,474	2,502	2,369	2,414	2,878	2,974	1,984	1,957	2,398	2,170	2,189	2,219
社会増減数	▲ 291	277	▲ 29	▲ 193	94	211	154	192	201	108	151	205	233	116

平均175人

出典：住民基本台帳（各年度）

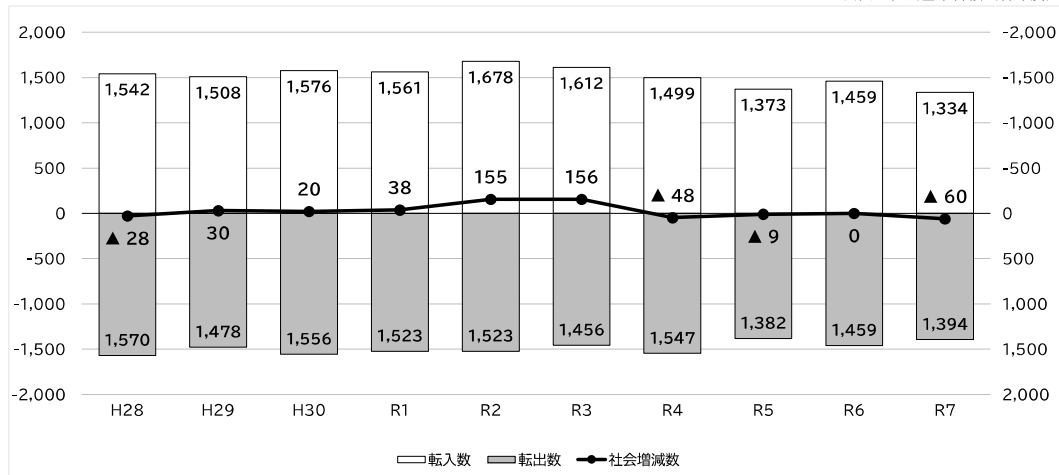


本市の社会増減は、転入者数・転出者数ともに年度間の差はあるものの、平成28年度以降は社会増の状態が続いており、年度平均175人程度の転入超過が続いています。令和2年度・3年度においては、コロナ禍の影響もあり転入・転出ともに大きく減少しましたが、令和4年度には増加に転じています。

■社会増減数（日本人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
転入数	2,211	1,802	1,576	1,534	1,542	1,508	1,576	1,561	1,678	1,612	1,499	1,373	1,459	1,334
転出数	2,286	1,661	1,648	1,656	1,570	1,478	1,556	1,523	1,523	1,456	1,547	1,382	1,459	1,394
社会増減数	▲ 75	141	▲ 72	▲ 122	▲ 28	30	20	38	155	156	▲ 48	▲ 9	0	▲ 60

出典：住民基本台帳（各年度）

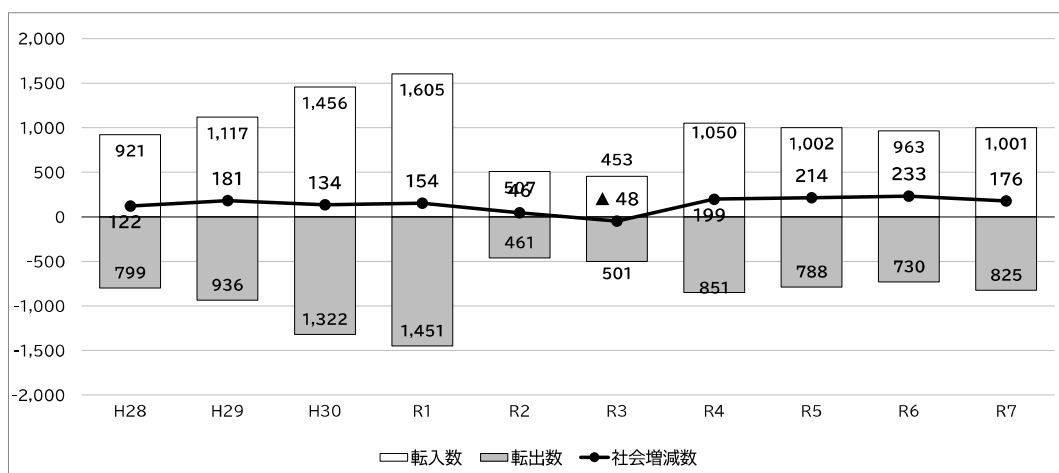


本市の社会増減のうち、日本人については、平成29年度以降転入超過が続いていましたが、令和4年度に転出超過の傾向にあり、令和7年度は例年と比較し、大幅な社会減となりました。

■社会増減数（外国人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
転入数	321	764	869	775	921	1,117	1,456	1,605	507	453	1,050	1,002	963	1,001
転出数	537	628	826	846	799	936	1,322	1,451	461	501	851	788	730	825
社会増減数	▲ 216	136	43	▲ 71	122	181	134	154	46	▲ 48	199	214	233	176

出典：住民基本台帳（各年度）

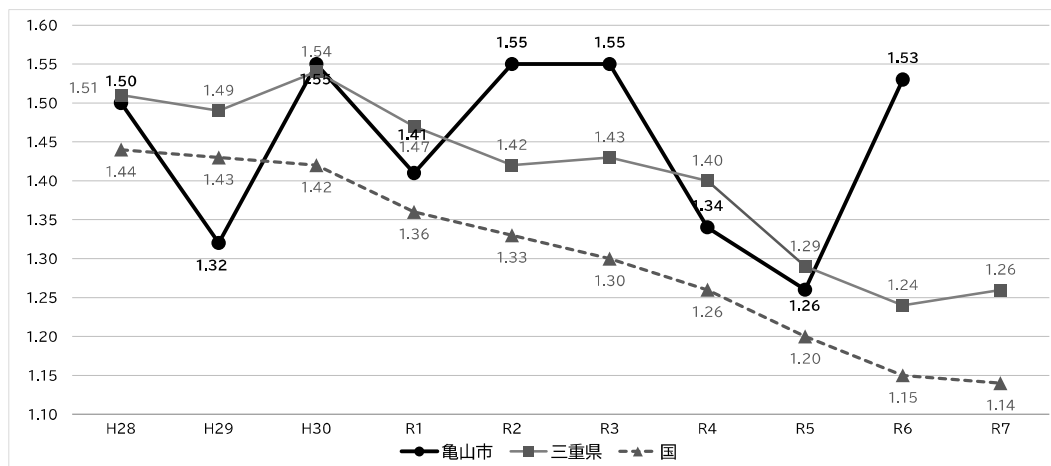


本市の社会増減のうち、外国人については、平成28年度以降、令和3年度を除いて転入超過が続いています。令和2年度・3年度においては、コロナ禍の影響もあり転入・転出ともに大きく減少し、特に令和3年度には社会減の状態となりましたが、令和4年度には社会増に転じ、その傾向が続いています。

■合計特殊出生率

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	H28以降平均
亀山市	1.56	1.58	1.63	1.47	1.50	1.32	1.55	1.41	1.55	1.55	1.34	1.26	1.53		1.45
三重県	1.47	1.49	1.56	1.45	1.51	1.49	1.54	1.47	1.42	1.43	1.40	1.29	1.24	1.26	1.42
国	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.20	1.15	1.14	1.32

出典：人口動態調査



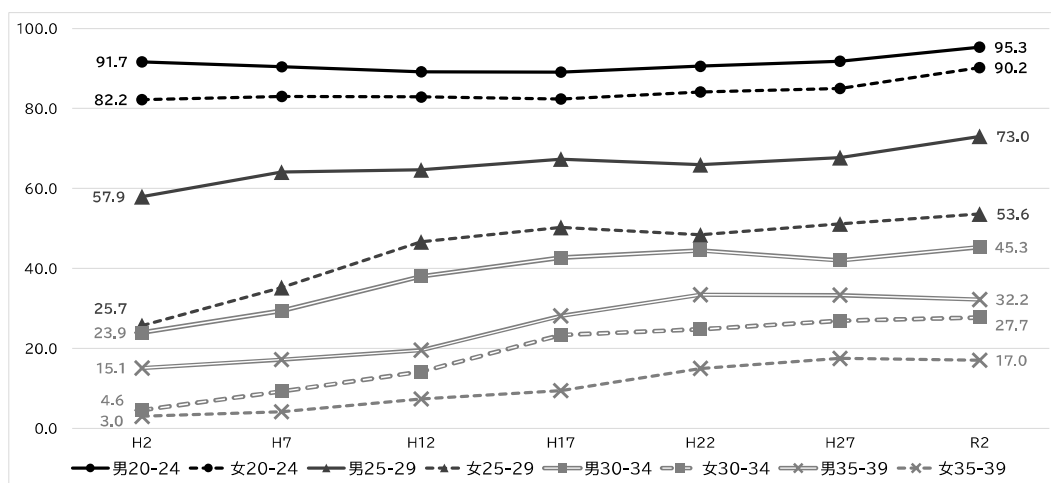
本市の合計特殊出生率は、令和4～5年は減少傾向にありましたが、令和6年は1.53と市単位で最も高い数値でありました。平成28年度以降の本市の平均は1.45となっており、三重県とは同水準にあり、国の水準は上回っています。一方、国全体で見ると、平成27年度は国・県・市ともほぼ同水準であったものが、平成28年度以降は低下傾向が続いています。

■未婚率

	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	H22との差
男20-24	91.7	90.4	89.2	89.1	90.6	91.8	95.3	4.74
女20-24	82.2	83.0	82.9	82.4	84.1	85.0	90.2	6.08
男25-29	57.9	64.1	64.6	67.3	65.9	67.7	73.0	7.09
女25-29	25.7	35.2	46.6	50.3	48.4	51.1	53.6	5.25
男30-34	23.9	29.4	38.0	42.7	44.5	42.0	45.3	0.83
女30-34	4.6	9.2	14.2	23.3	24.7	26.9	27.7	2.97
男35-39	15.1	17.2	19.5	28.1	33.4	33.3	32.2	-1.18
女35-39	3.0	4.2	7.3	9.4	15.0	17.5	17.0	2.02

出典：国勢調査

本市の未婚率は、平成22年度と比較すると、男性35歳から39歳までを除き、全ての世代で上昇しています。特に、男女ともに25歳から29歳までの世代は、未婚率が50%以上となっています。我が国では、婚外子の割合が諸外国と比較して低い(R2：2.4%)ことから、晩婚化の進展は、少子化の要因のひとつであると考えられます。

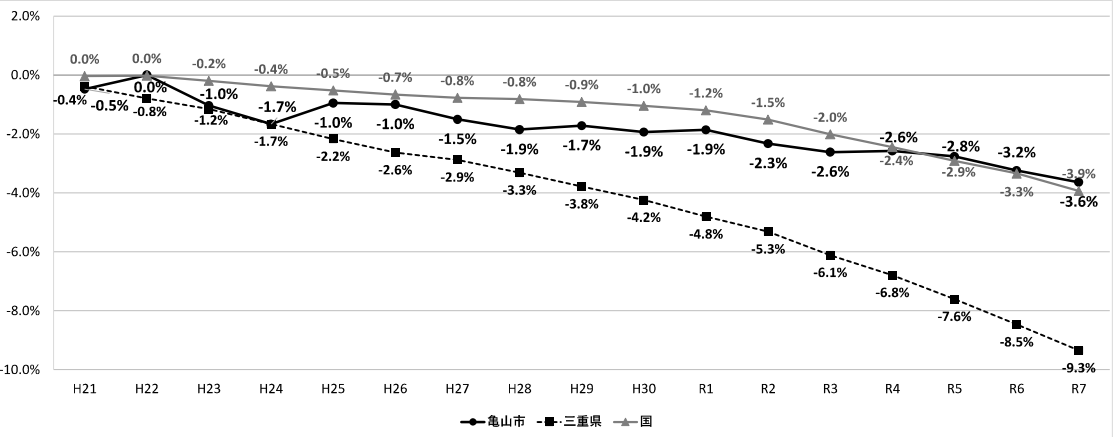


国・三重県・亀山市のピーク人口に対する各年度の人口減少率

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
国	128,984,000	128,032,000	128,057,000	127,834,000	127,593,000	127,414,000	127,237,000	127,095,000	127,042,000	126,919,000	126,749,000	126,555,000	126,146,000	125,502,000	124,947,000	124,352,000	123,802,000	123,049,524
三重県	1,869,669	1,862,575	1,854,724	1,848,107	1,838,611	1,829,063	1,820,491	1,815,865	1,807,611	1,798,886	1,790,376	1,779,770	1,770,254	1,755,415	1,742,703	1,727,503	1,711,370	1,694,896
亀山市	50,603	50,779	51,023	50,494	50,173	50,537	50,512	50,254	50,077	50,146	50,035	50,074	49,835	49,689	49,710	49,614	49,370	49,168
	-0.8%	-0.5%	0.0%	-1.0%	-1.7%	-1.0%	-1.0%	-1.5%	-1.9%	-1.7%	-1.9%	-1.9%	-2.3%	-2.6%	-2.6%	-2.8%	-3.2%	-3.6%
	0.0%	-0.4%	-0.8%	-1.2%	-1.7%	-2.2%	-2.6%	-2.9%	-3.3%	-3.8%	-4.2%	-4.8%	-5.3%	-6.1%	-6.8%	-7.6%	-8.5%	-9.3%
	0.0%	0.0%	0.0%	-0.2%	-0.4%	-0.5%	-0.7%	-0.8%	-0.8%	-0.9%	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-2.0%	-2.6%	-2.9%	-3.3%	-3.9%

※上段は総人口、下段はピーク人口に対する減少率

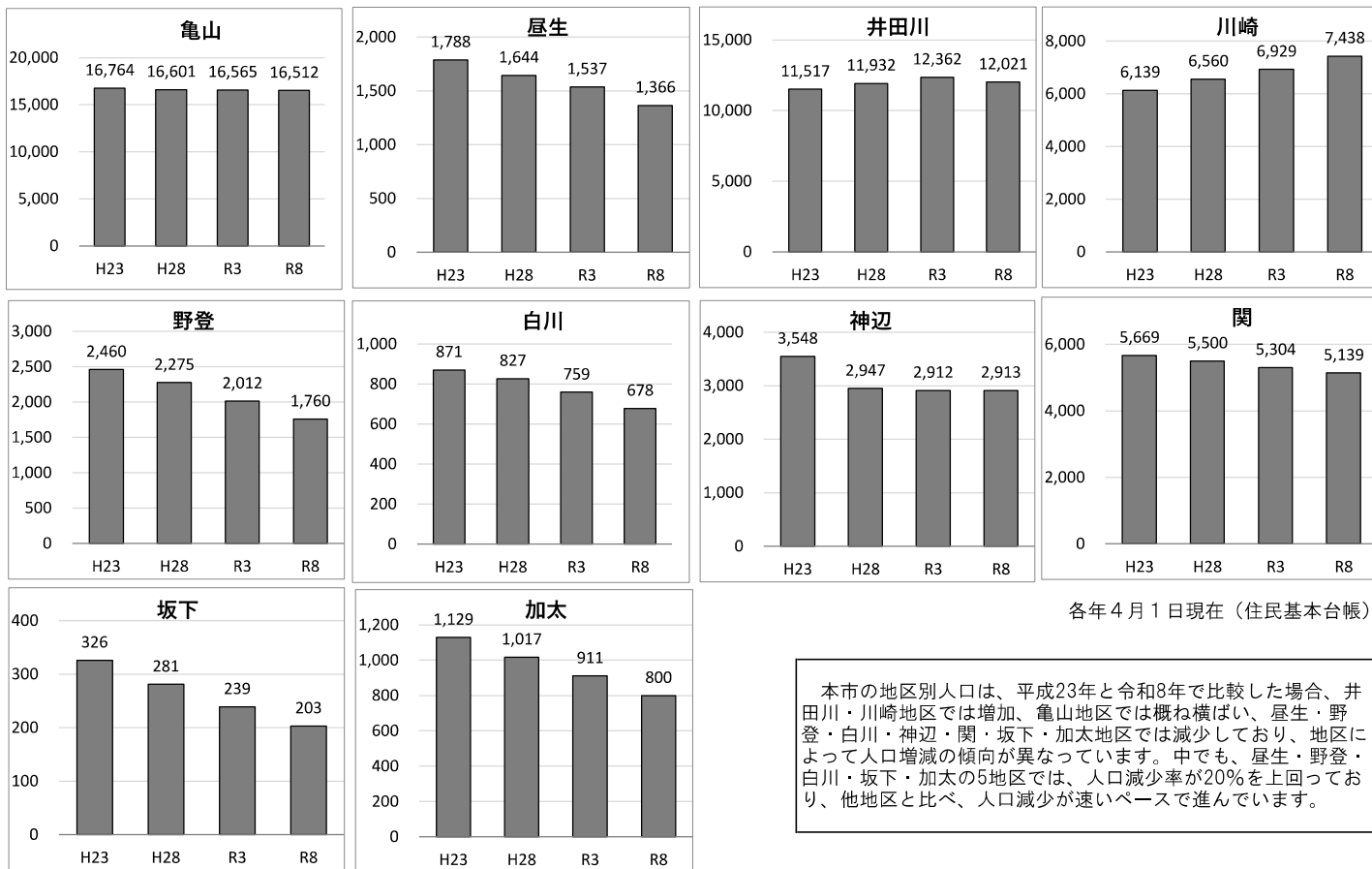
（ピーク人口に対する各年度の人口減少率）



	ピーク人口	R7人口	増減	減少率
国	128,984,000	123,049,524	-5,934,476	-3.9%
県	1,869,669	1,694,896	-174,773	-9.3%
市	51,023	49,168	-1,855	-3.6%

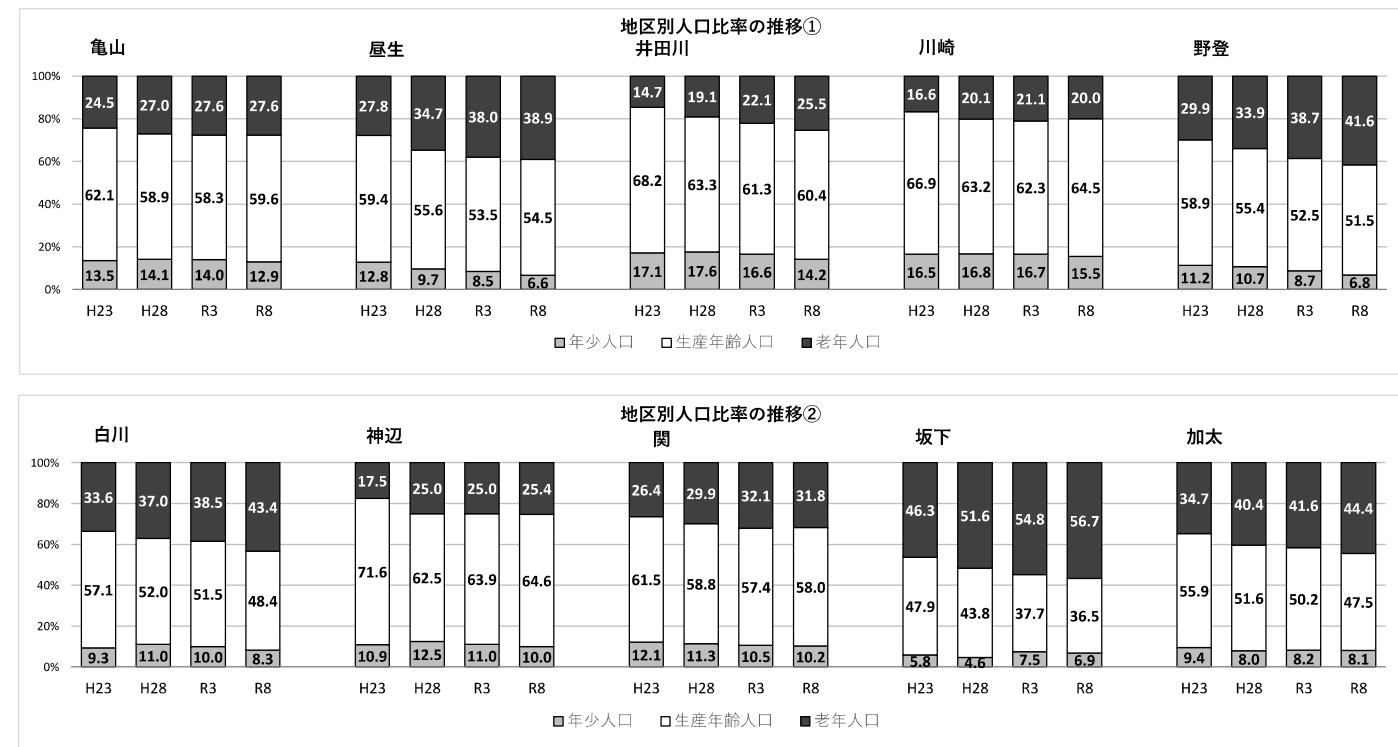
国・三重県・亀山市のピーク人口（国・県は平成20年度、本市は平成22年度）から令和7年にかけての人口増減率を比較すると、国-3.9%・県-9.3%・市-3.6%となっています。人口減少は続いているものの、国・県と比較すると、本市の人口減少は緩やかに進行していることが分かります。

■地区別人口



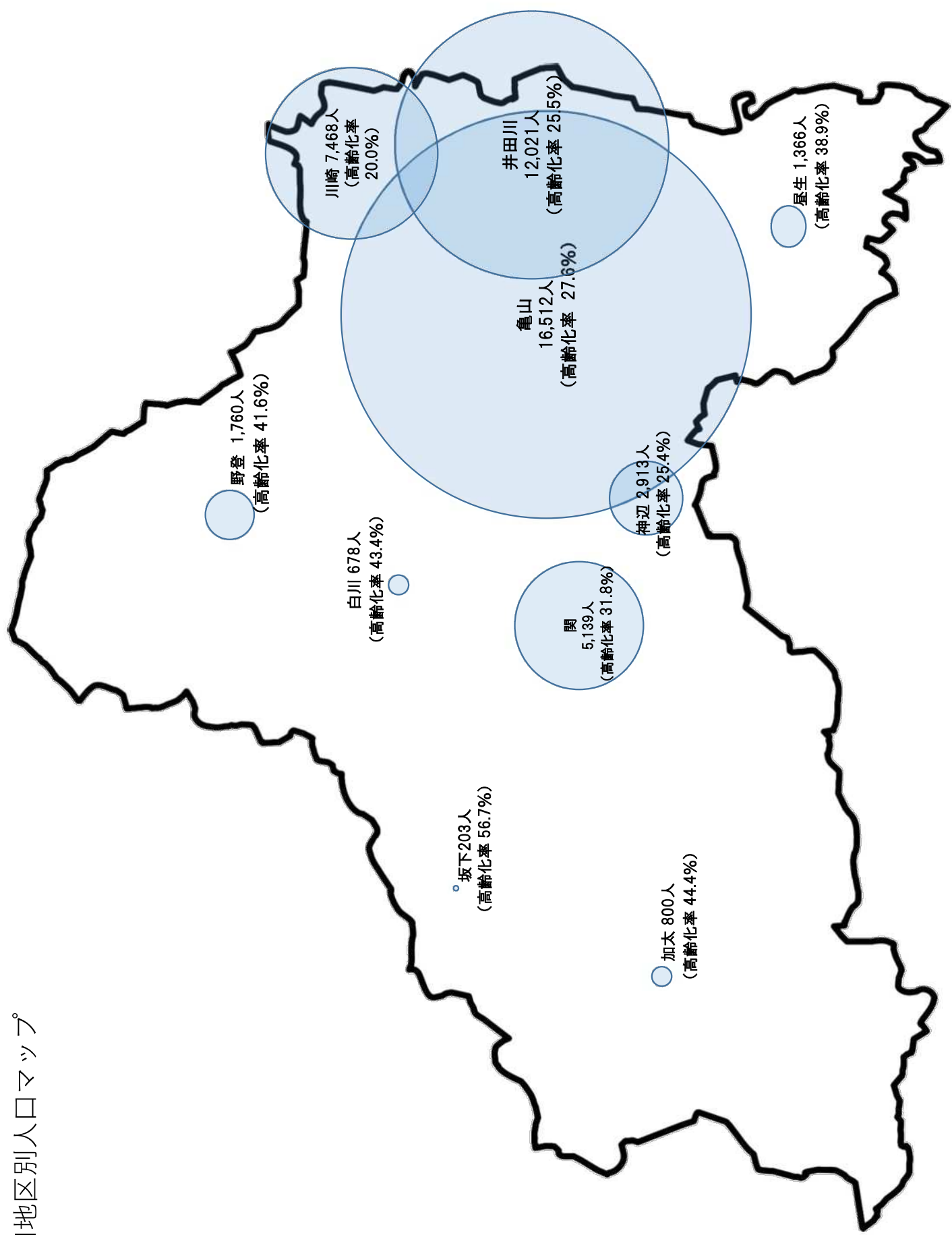
■地区別人口比率

（参考：R8 本市全体）年少人口 12.6% 生産年齢人口 59.8% 老年人口 27.7%

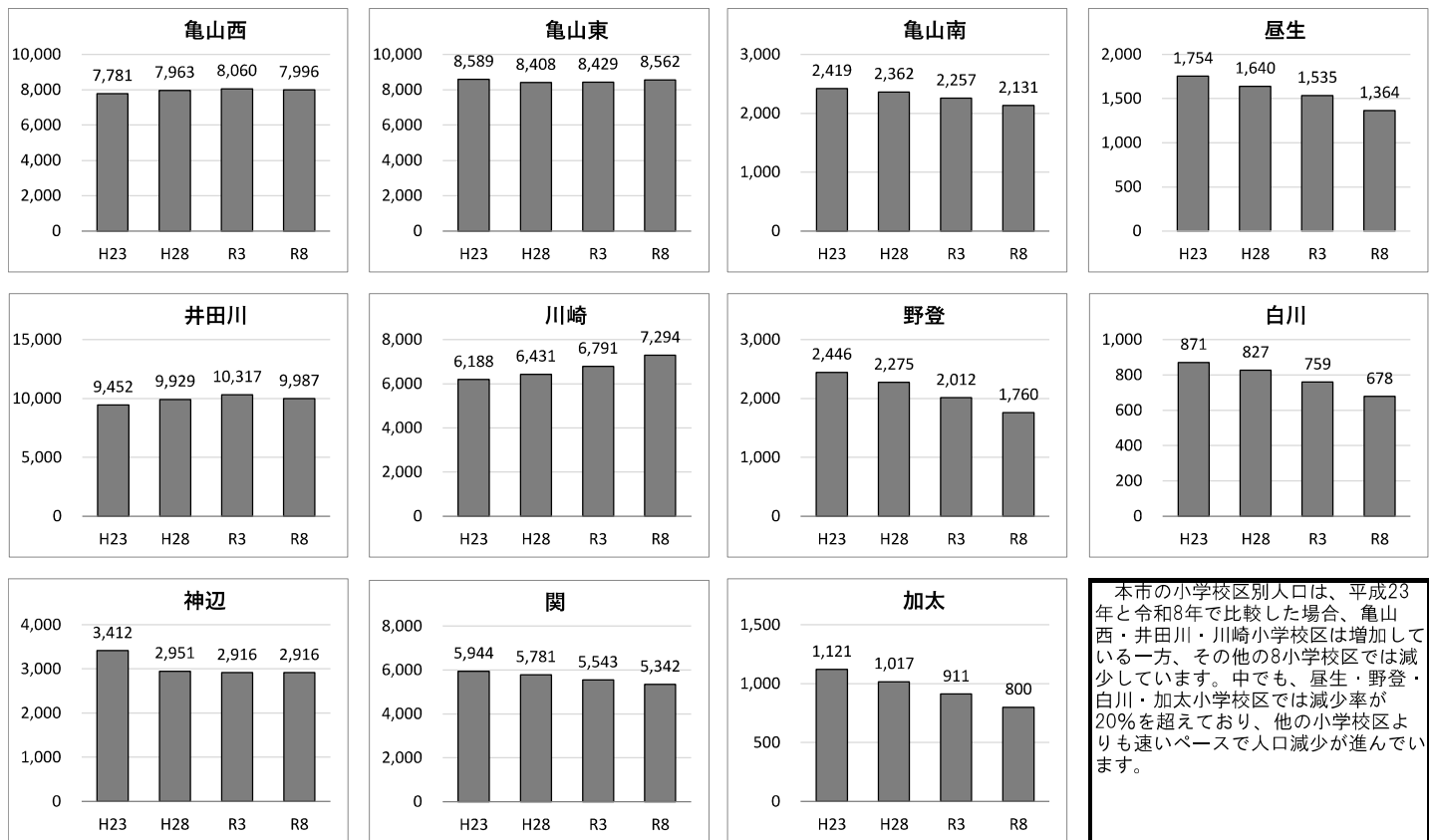


本市の地区別人口比率（令和8年）について、年少人口は、亀山・井田川・川崎地区、生産年齢人口は、井田川・川崎・神辺地区において本市全体の平均を上回っています。地区によって人口比率に差が生じており、年少人口の比率が低い地区では人口減少が速いペースで進んでいる傾向が見て取れます。

■地区別人口マップ



■小学校区別人口の推移

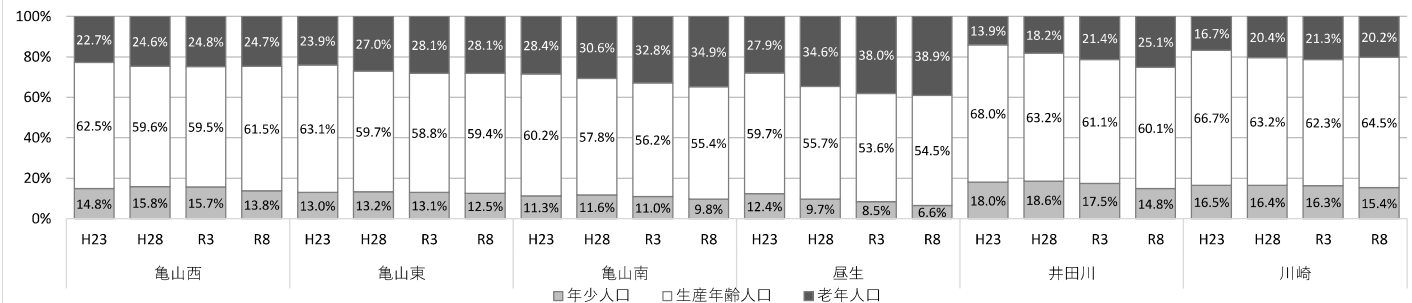


・各年4月1日現在（住民基本台帳）※平成23年は10月1日（H23.9以前は集計方法が異なるため）※システム集計のため合計が総人口と一致しない場合があります。

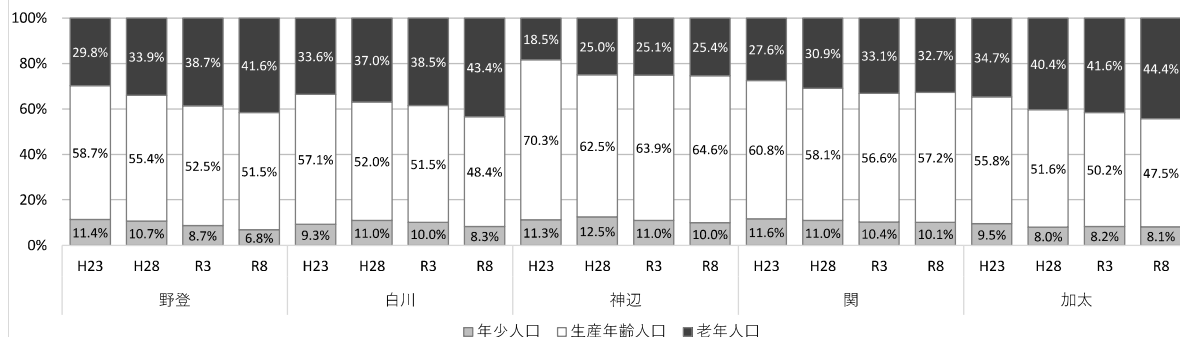
■小学校区別人口比率

（参考：R8 本市全体）年少人口 12.6% 生産年齢人口 59.8% 老年人口 27.7%

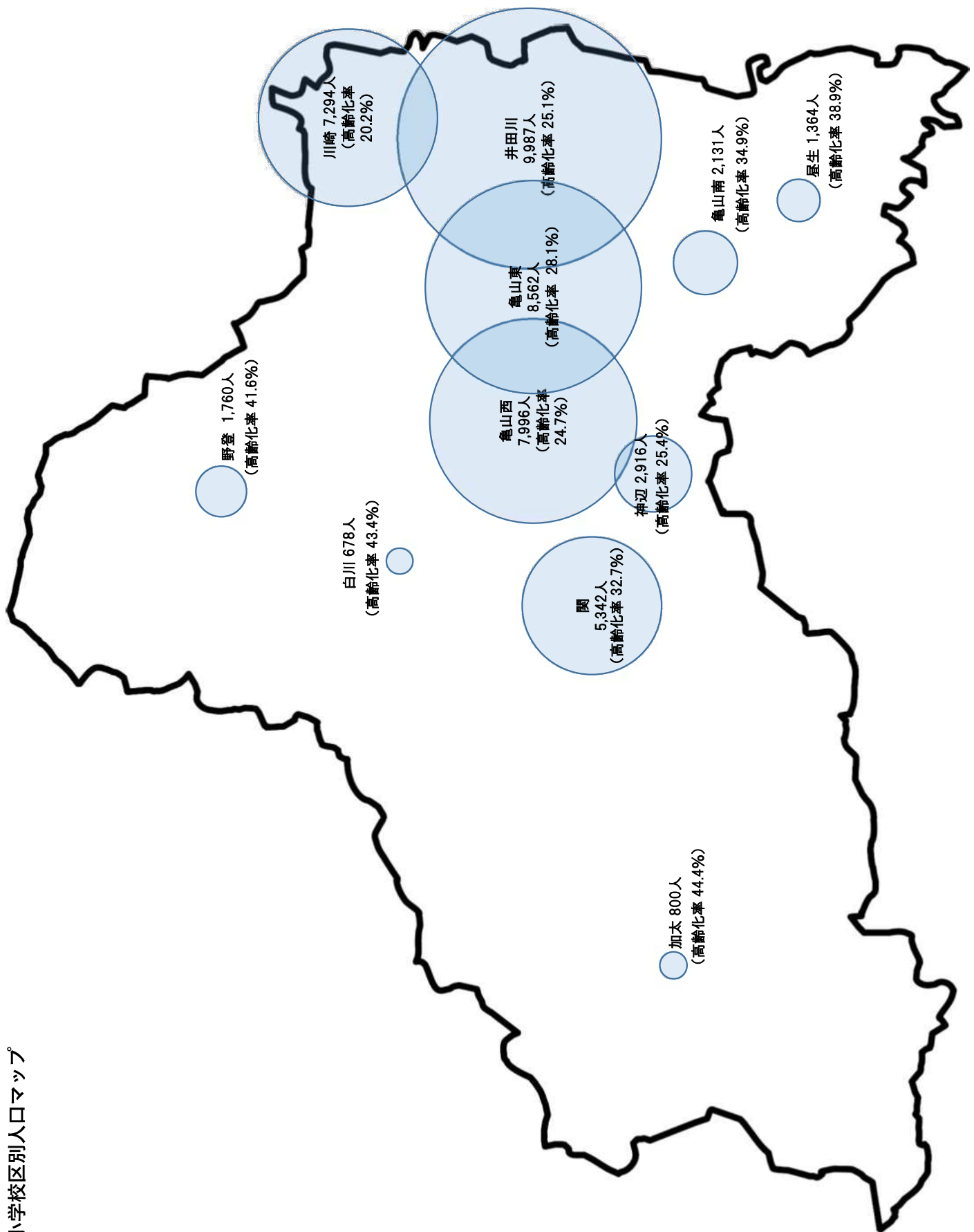
小学校区別人口比率の推移①



小学校区別人口比率の推移②



本市の小学校区別人口比率（令和8年4月1日）について、年少人口は、亀山西・井田川・川崎の3小学校区、生産年齢人口は、亀山西・井田川・川崎・神辺小学校区において本市全体の平均を上回っています。一方、老年人口は、亀山東・亀山南・昼生・野登・白川・関・加太小学校区で本市全体の平均を上回っており、小学校区によって差異が生じています。

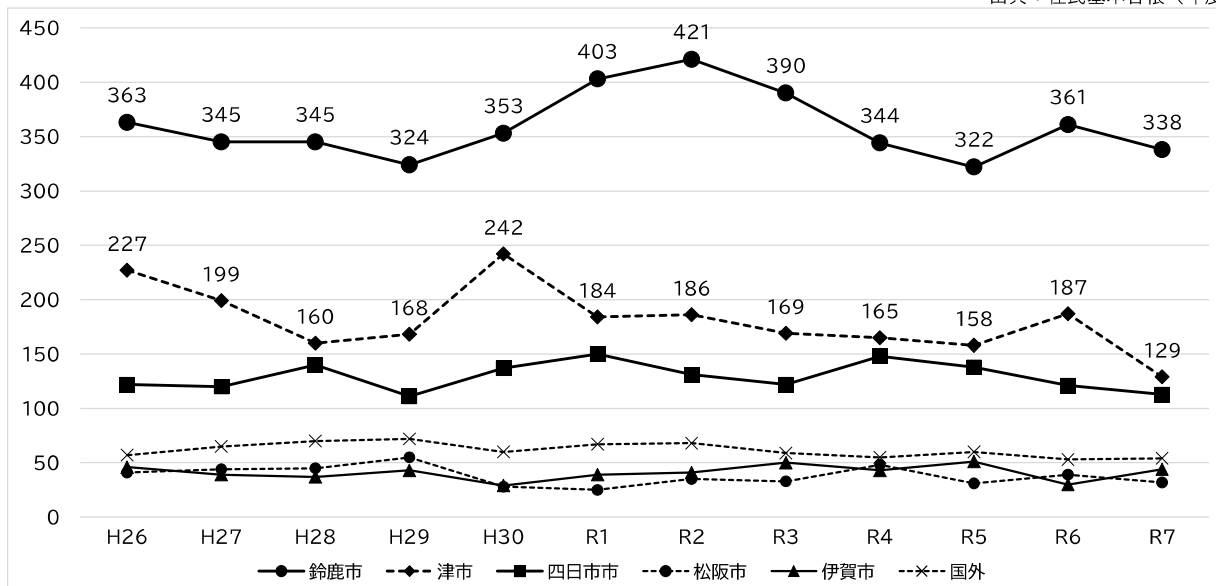


■主要な転入元（日本人）

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
鈴鹿市	363	345	345	324	353	403	421	390	344	322	361	338
津市	227	199	160	168	242	184	186	169	165	158	187	129
四日市市	122	120	140	111	137	150	131	122	148	138	121	113
松阪市	41	44	45	55	28	25	35	33	48	31	39	32
伊賀市	46	39	37	43	29	39	41	50	43	51	30	44
桑名市	20	15	21	21	15	21	23	28	29	15	43	24
国外	57	65	70	72	60	67	68	59	55	60	53	54

出典：住民基本台帳（年度）



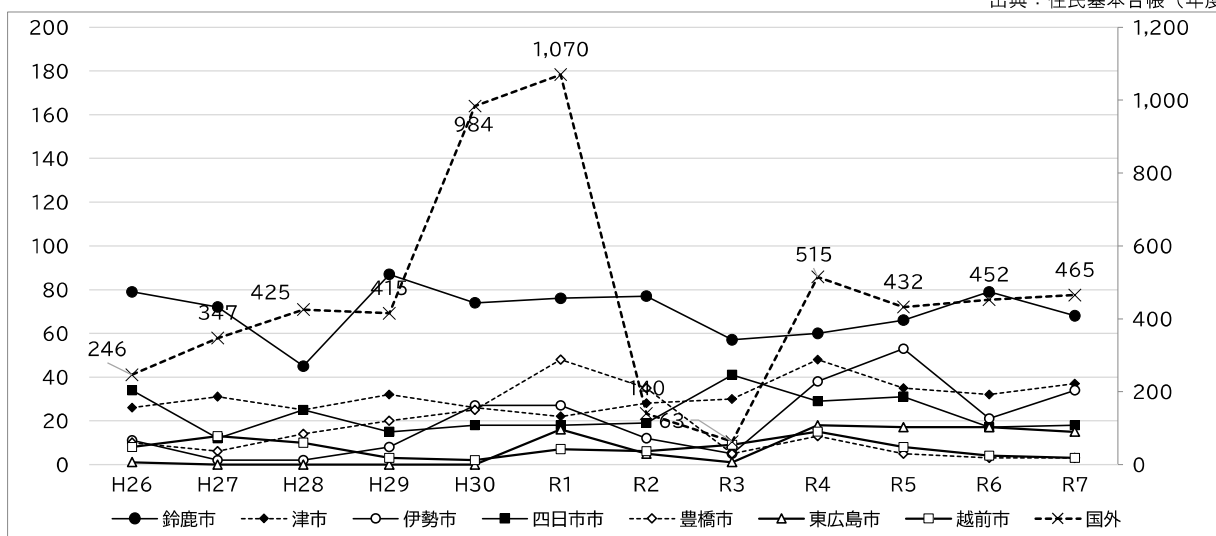
本市への主要な転入元（日本人）は、県内近隣市が多くを占めており、特に鈴鹿市・津市・四日市市からの転入が多い状態で推移しています。

■主要な転入元（外国人）

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
国外	246	347	425	415	984	1,070	140	63	515	432	452	465
鈴鹿市	79	72	45	87	74	76	77	57	60	66	79	68
津市	26	31	25	32	26	22	28	30	48	35	32	37
伊勢市	11	2	2	8	27	27	12	5	38	53	21	34
四日市市	34	12	25	15	18	18	19	41	29	31	17	18
豊橋市	10	6	14	20	25	48	35	5	13	5	3	3
東広島市	1	0	0	0	0	16	5	1	18	17	17	15
越前市	8	13	10	3	2	7	6	9	15	8	4	3

出典：住民基本台帳（年度）



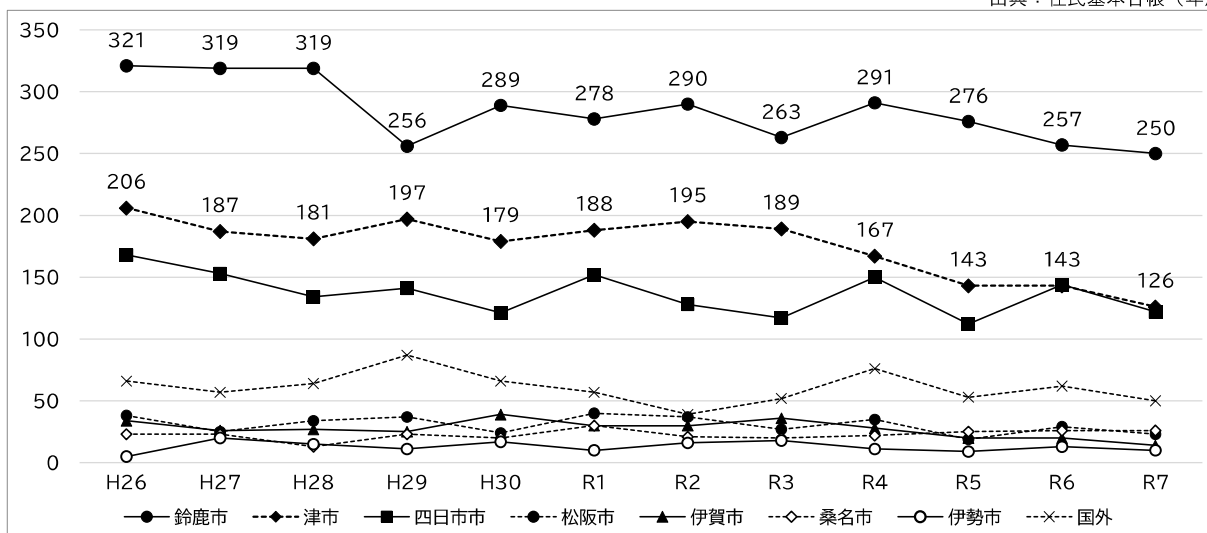
本市への主要な転入元（外国人）は、国外が多くを占めるほか、県内近隣市からの転入が一定程度を占める状態で推移しています。また、県外からの転入も、転入元には変動があるものの継続しています。

■主要な転出先（日本人）

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
鈴鹿市	321	319	319	256	289	278	290	263	291	276	257	250
津市	206	187	181	197	179	188	195	189	167	143	143	126
四日市市	168	153	134	141	121	152	128	117	150	112	144	122
松阪市	38	25	34	37	24	40	37	27	35	19	29	23
伊賀市	34	26	27	25	39	30	30	36	28	20	20	14
桑名市	23	23	13	23	20	30	21	20	22	25	26	26
伊勢市	5	20	15	11	17	10	16	18	11	9	13	10
国外	66	57	64	87	66	57	39	52	76	53	62	50

出典：住民基本台帳（年度）



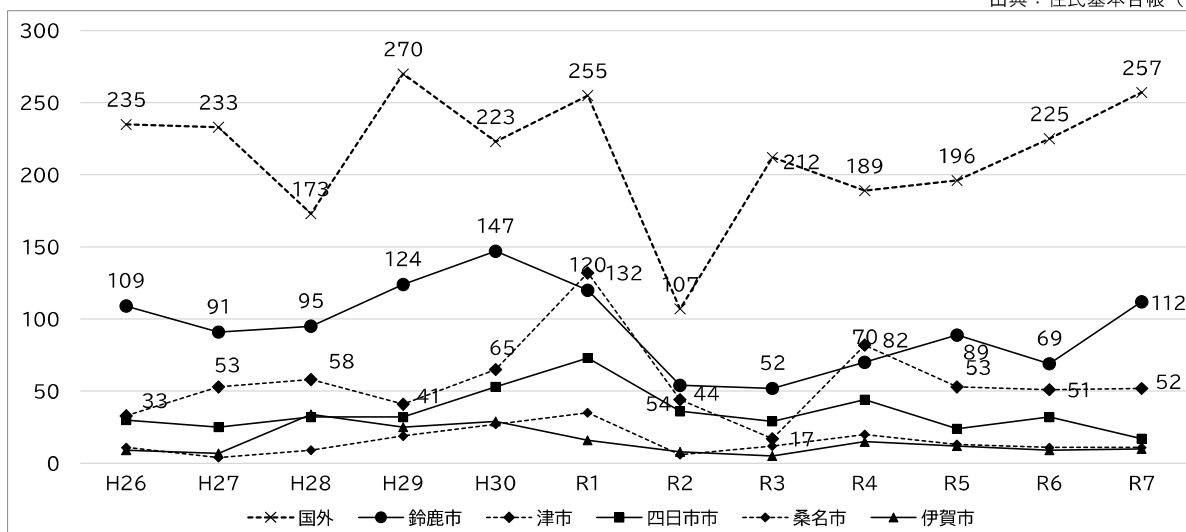
本市からの主要な転出先（日本人）は、県内近隣市が多くを占めており、特に鈴鹿市・津市・四日市市への転出が多い状態で推移しています。

■主要な転出先（外国人）

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
国外	235	233	173	270	223	255	107	212	189	196	225	257
鈴鹿市	109	91	95	124	147	120	54	52	70	89	69	112
津市	33	53	58	41	65	132	44	17	82	53	51	52
四日市市	30	25	32	32	53	73	36	29	44	24	32	17
桑名市	11	4	9	19	27	35	6	12	20	13	11	11
伊賀市	9	7	34	25	29	16	8	5	15	12	9	10

出典：住民基本台帳（年度）



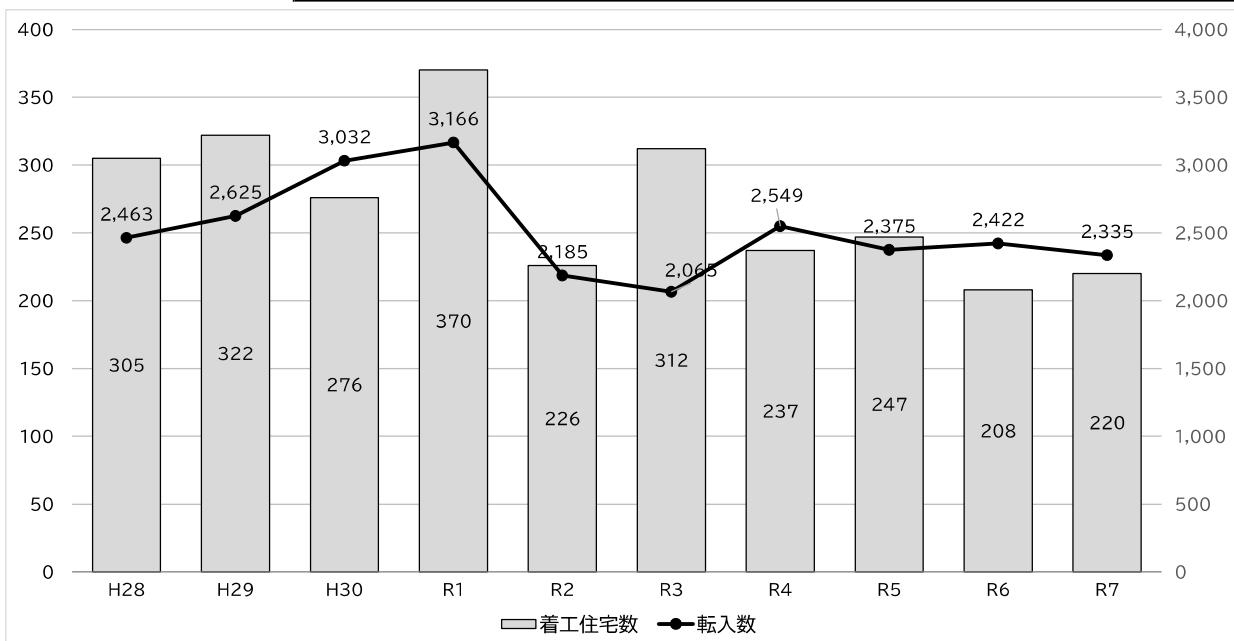
本市からの主要な転出先（外国人）は、国外が多くを占めるほか、県内近隣市への転入が一定程度を占める状態で推移しています。

■着工住宅数（総計）と転入数

（戸・件／人）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
転入数	2,445	2,309	2,463	2,625	3,032	3,166	2,185	2,065	2,549	2,375	2,422	2,335
着工住宅数	279	234	305	322	276	370	226	312	237	247	208	220

平均272.3戸・件



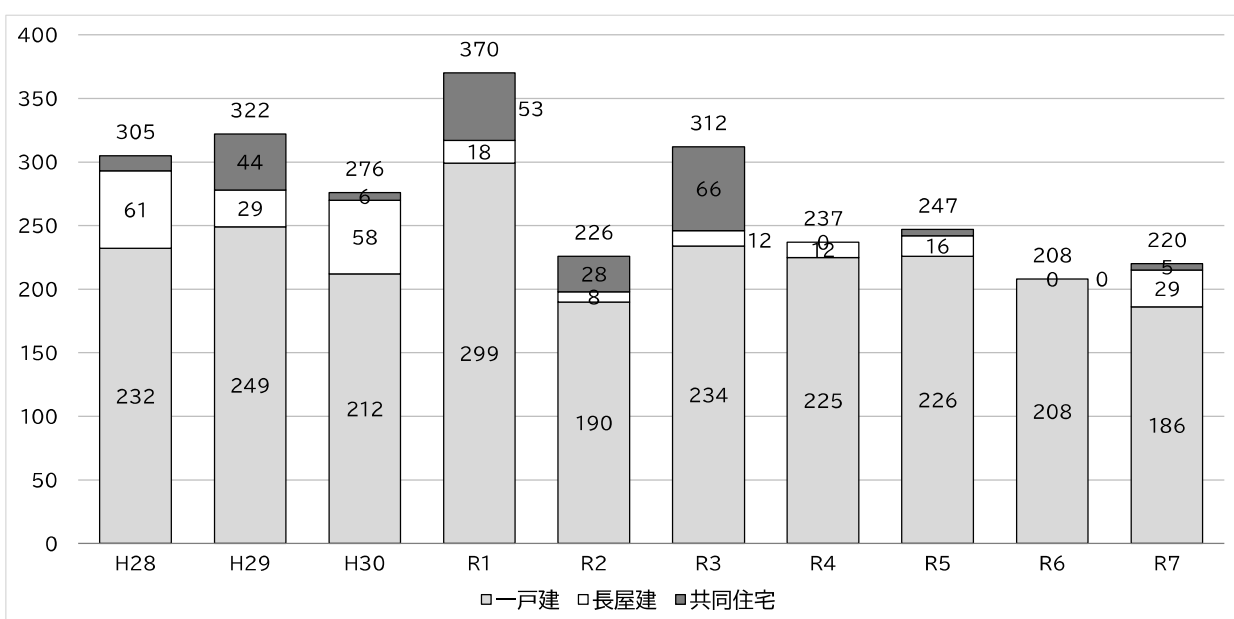
本市の住宅着工数は、年度によるばらつきはあるものの、平成27年度以降で見ると、年間平均着工数は274戸となっています。

■着工住宅数（総計）

（戸・件）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
総計	279	234	305	322	276	370	226	312	237	247	208	220
一戸建	233	218	232	249	212	299	190	234	225	226	208	186
長屋建	26	16	61	29	58	18	8	12	12	16	0	29
共同住宅	20	0	12	44	6	53	28	66	0	5	0	5

出典：住宅着工統計（年度次）



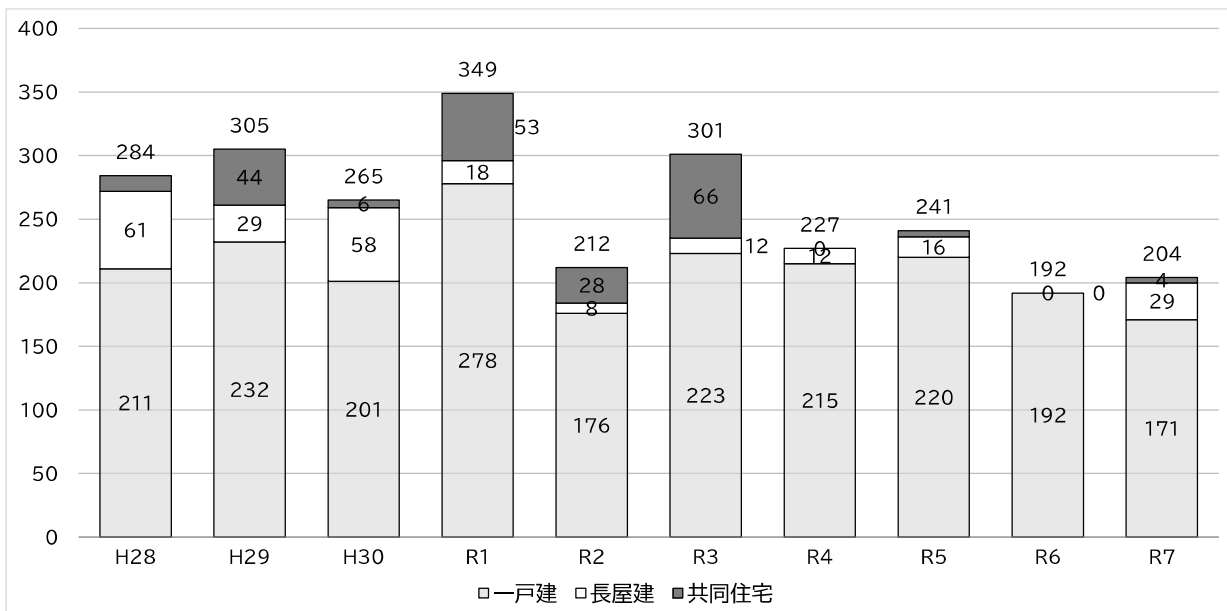
本市の住宅着工数は、令和4年度以降は令和6年度を除き、総計220～250戸で推移し、一戸建てが多くの割合を占めています。長屋建・共同住宅については、年度による着工数にばらつきがみられます。

■着工住宅数（新設）

（戸・件）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
総計	260	218	284	305	265	349	212	301	227	241	192	204
一戸建	214	202	211	232	201	278	176	223	215	220	192	171
長屋建	26	16	61	29	58	18	8	12	12	16	0	29
共同住宅	20	0	12	44	6	53	28	66	0	5	0	4

出典：住宅着工統計（年度次）

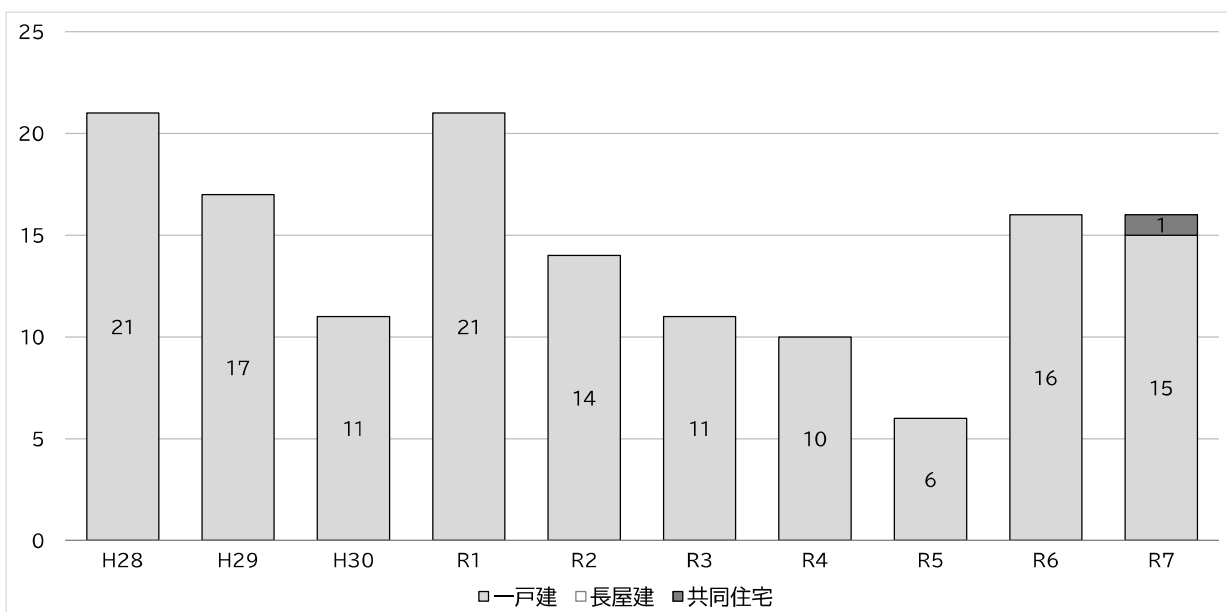


■着工住宅数（増改築）

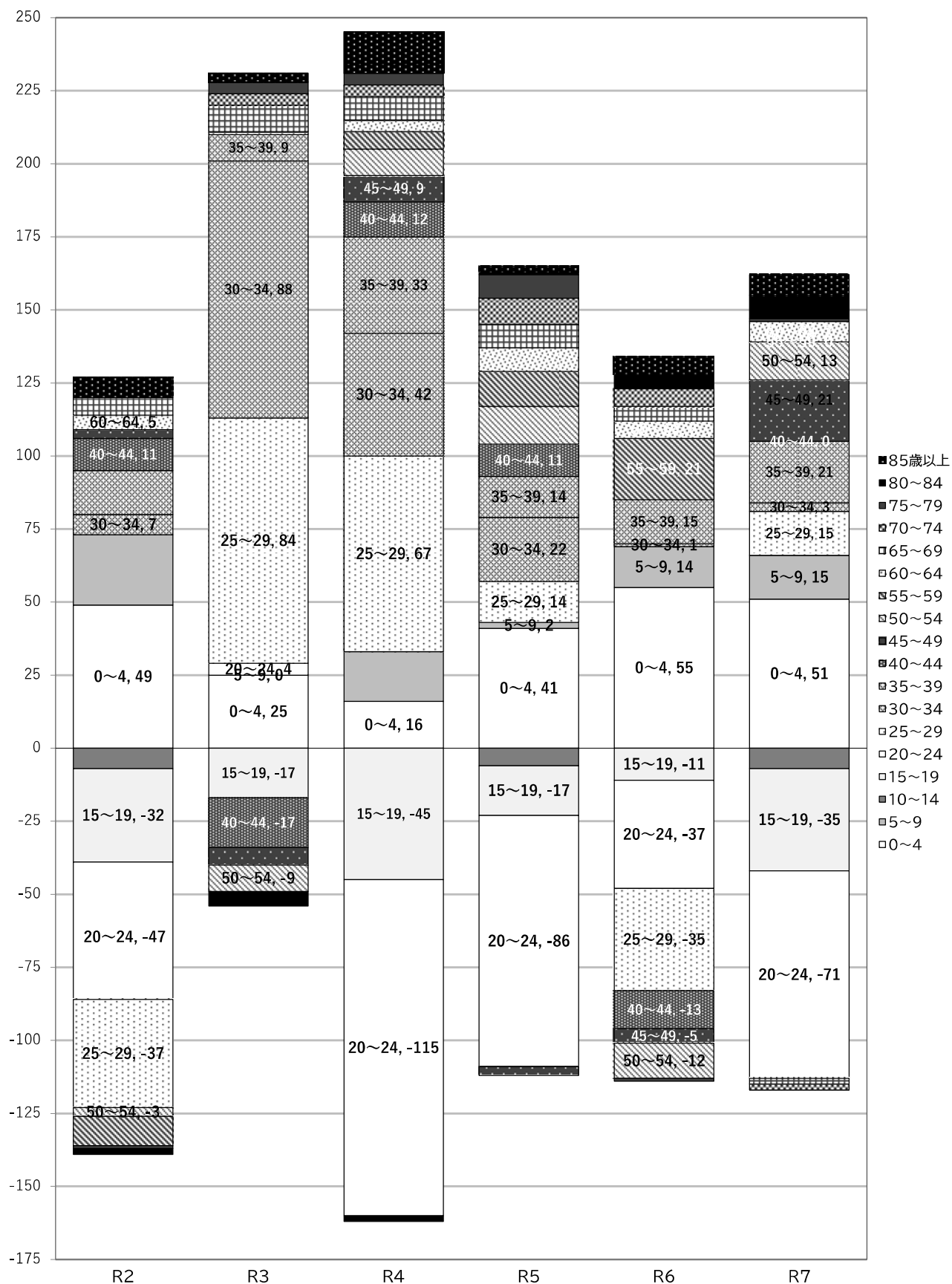
（戸・件）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
総計	19	16	21	17	11	21	14	11	10	6	16	16
一戸建	19	16	21	17	11	21	14	11	10	6	16	15
長屋建	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共同住宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

出典：住宅着工統計（年度次）

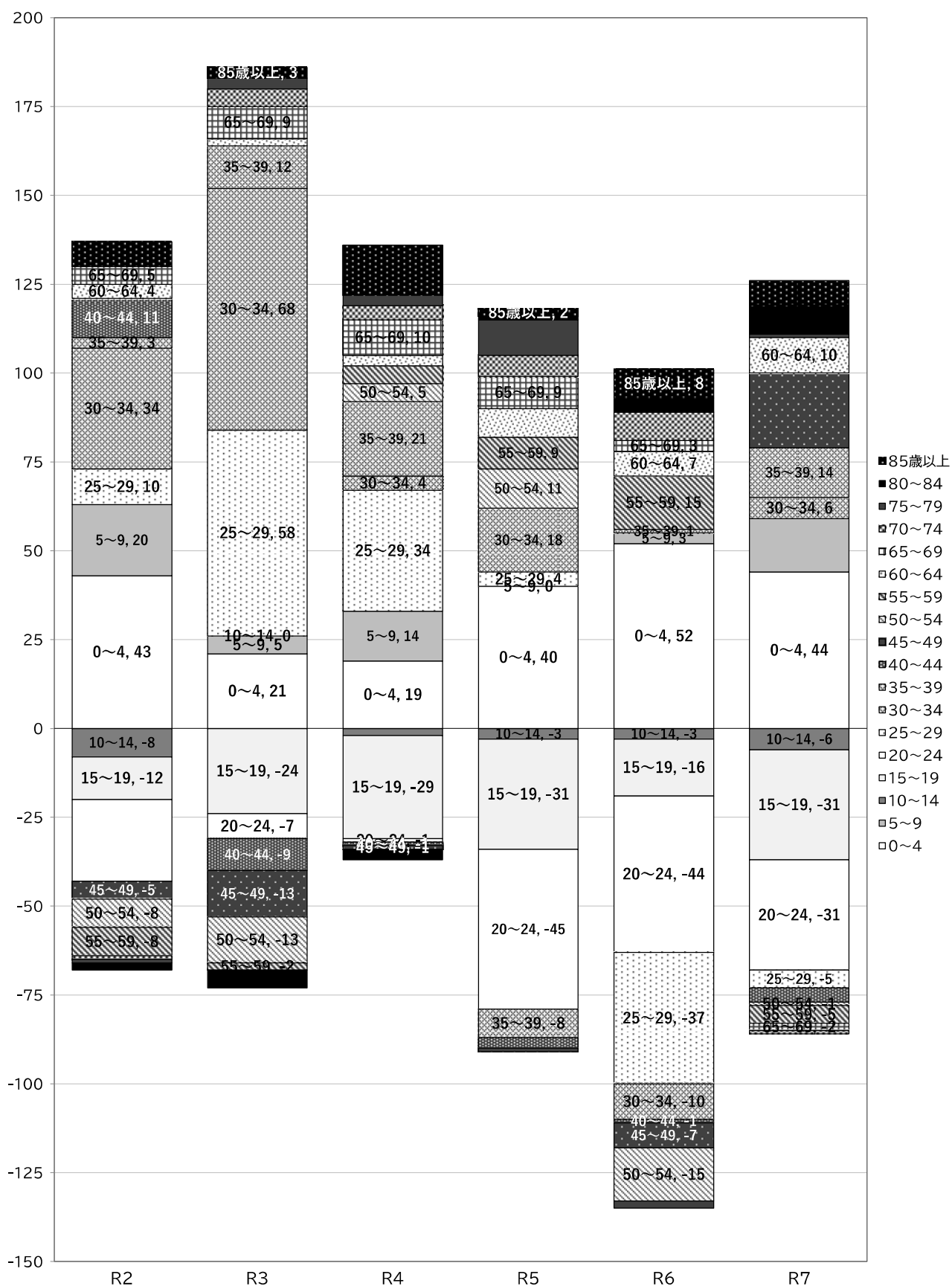


■年齢階級別の人口移動の推移（総数）



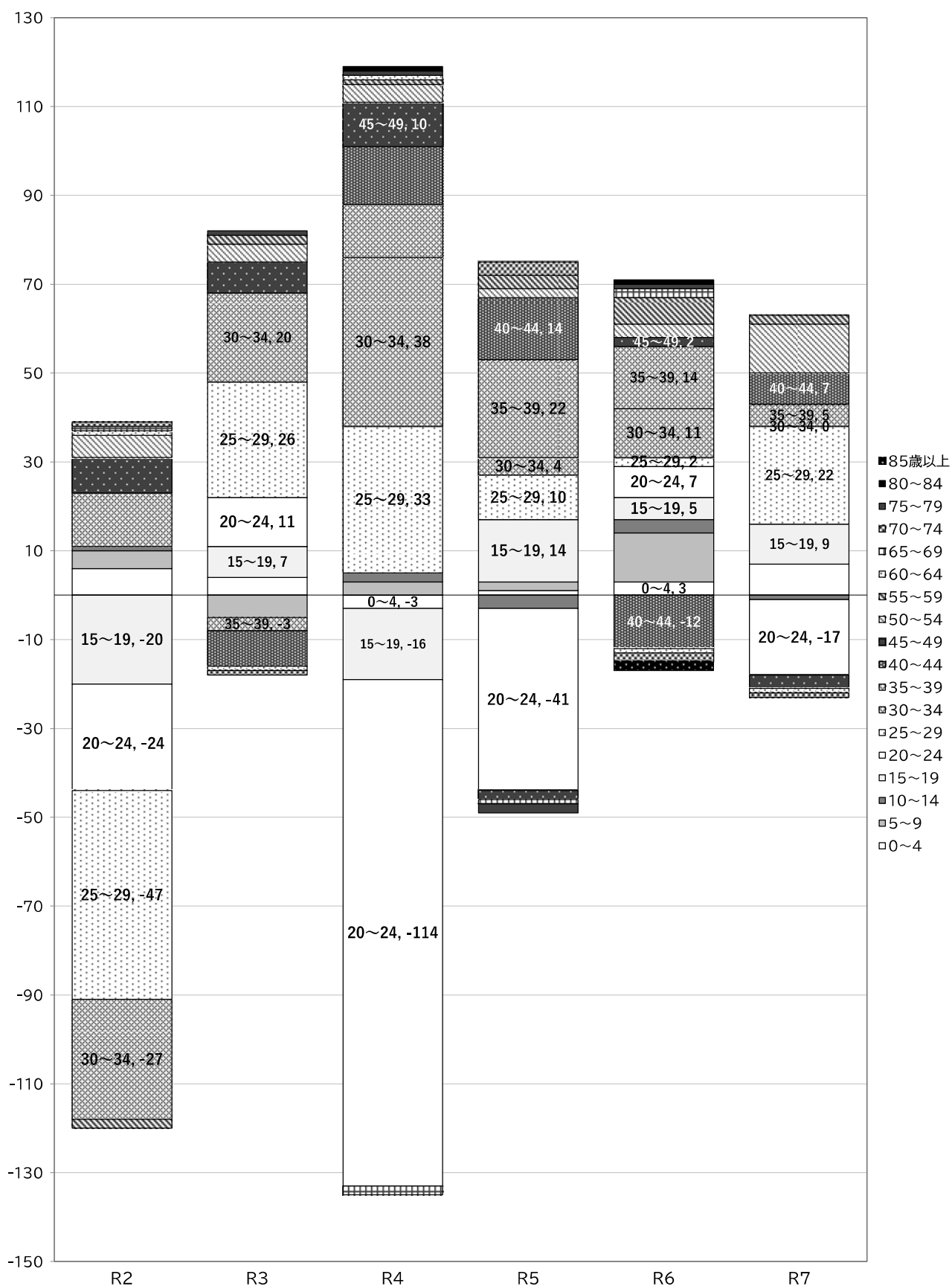
本市の年齢階級別の人口移動は、就職や大学等への進学を迎える15歳～19歳・20歳～24歳において転出超過が大きくなっている一方で、25歳～29歳・30歳～34歳・35歳～39歳においては転入超過となっており、0歳～4歳、5歳～9歳もやや増加しています。就職・進学等で一旦地元を離れるものの、子育て世代となって帰って来ているものと推察でき、人口減少を抑制するためにも、こうした世代の還流を促進していくことが必要となります。

■ 年齢階級別の人口移動の推移（日本人）



年齢階級別の人口移動を日本人に限定してみると、就職や大学等への進学を迎える15歳～19歳・20歳～24歳の世代は、毎年転出超過が続いている一方で、0歳～4歳・5歳～9歳の世代は転入超過が続いており、子育て世帯の転入が続いているものと推察されます。こうしたことから、人口減少を抑制するためには、子育て世代の流入を一層促進するとともに、若者世代の定着に向けた取り組みを展開していく必要があります。

■ 年齢階級別の人口移動の推移（外国人）



年齢階級別の人口移動を外国人に限定してみると、年度によって転入出数にばらつきはあるものの、令和5年度以降、全体で転入数が上回っている傾向にあります。外国人の転入出については、社会経済情勢の影響を大きく受けることから、その動向を注視していく必要があります。

